

備前市事務事業評価シート

事業の概要		事業開始年度 平成元年度～		根拠法令・例規等 備前市補助金等交付規則
大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり	
中項目	基本施策	02	生きがいのあるまちづくり	問合先 担当課(室) 生涯学習課 職・氏名 生涯学習係長 波多野 靖成 電話 0869-64-1841
小項目	施策	02	青少年教育(青少年の主体的活動の促進)	
事務事業名		03	青少年活動支援事業	

事業の実施		対象(誰・何に対して) 備前市連合青年協議会、備前市FOS少年団連絡協議会(日生、吉永)
目的(何のために)		青年協議会及びFOS少年団に補助金を交付し、その活動を支援することにより、ボランティア活動や市の行う事業への協力など、地域社会への寄与を目的とする。
行政活動(どのような方法で)		補助金交付事務及び活動支援。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)		少子化の中で現状は厳しいが、少年期の貴重なボランティア体験を行えるFOSの確保と、主に青少年を対象とした自主行事を行える青年協議会員の確保し、市の行事への積極的参画・参加を行っている。

事業の実績				
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
備前市連合青年協議会会員数	人	32	28	23
青年主催行事への市民参加者数	人	550	300	700
日生・吉永FOS団員数	人	136	126	149
事業費				
直接事業費	千円	708	708	567
必要人員	人	0.15	0.02	0.38
人件費	千円	1,300	150	2,514
事業費	千円	2,008	858	3,081
財源				
国	千円			
県	千円			
支	千円			
出	千円			
金	千円			
受	千円			
益	千円			
者	千円			
負	千円			
担	千円			
比	千円			
率	千円			
	千円	2,008	858	3,081
結果指標				
結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
活動行事参加者数	説明	連合青年協議会としての活動行事への市民参加者数		
結果指標①	人	550	300	700
対前年比	%		54.5%	233.3%
活動コスト	円	977,000	402,000	338,000
単位当たりコスト	円	1,776	1,340	483
FOS少年団員数	説明	日生・吉永FOS少年団員数		
結果指標②	人	136	126	149
対前年比	%		92.6%	118.3%
活動コスト	円	1,031,000	456,000	1,898,000
単位当たりコスト	円	7,581	3,619	12,738

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
到達目標	目標値(A)	170	170	170	170
	実績値(B)	168	154	172	到達目標年度
	達成率(B/A)	98.8%	90.6%	101.2%	平成21年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
備前市連合青年協議会会員数+日生・吉永FOS団員数。急成長は望めない面があるが、現状は維持したい。					

事務事業の評価		(平成20年度事業)	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者になっている <input checked="" type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 市における青少年活動の参加窓口として機能しており、FOSは少年期におけるボランティア参加、青年は少年少女を対象とした事業を企画運営、または市主催行事へのボランティア参加など貢献度は高いものがある。課題は両団体とも少子化と青年層における二つの多様化などにより、会員数の増加が望みにくいものがある。青年協議会が隔年で実施している青年祭祭・ナイター陸上では、いち早く車椅子競技に注目し、子どもに競技を見せ感動を与えた。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明 青年活動やFOS活動への地域貢献には多くの理解者がいる。	効率性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 任意団体が合併後の運営に苦慮する中、連合組織を自主運営することができると青年協議会は評価すべきであり、一概に人数で論じるべきではないと考える。FOSは単位団への関与が旧時代と変わらず、地域公民館職員が担当している。H20からコスト反映した結果がコスト増大に結びついている。ただし、団員の確保という面では一定の成果を得たとと思われる。
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	有効性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 連合青年協議会も、今ひとつ運営が単発行事になっていたが、20年度は「青年祭・ナイター陸上」を競技団体と工夫し、史上最多の参加(選手340、観客300)を得て関係者の評価も高かった。またFOS少年団は、補助金支出先を一本化した活動はそれぞれで行い、少子化の中まは積極的に団員確保に努め成果を得た。
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
有効性の評価	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input checked="" type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	
	市民参画度		

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	600	結果指標量②	150	成果指標量	170
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	青年協議会の4年目は連合組織充実のため、単位団の枠を超えた活動をメインに協力していくことを総会で確認した。FOSは引き続き団員の確保と特色ある行事運営を図っていく。少年団体は県内でも飽和状態であるが、現状とおり進めていく。					

総合評価		評価区分<A~E> C
県下に於いても特に青年団は減少・消滅する団(会)が多い中、備前市は活動を維持しているし、若者の代表としての価値は高い。平成22年国民文化祭へのボランティアにいち早く参加を表明したり、成人式協力など貢献度も高いが、市内の認知度も高める必要もある。その予備軍としてのFOS少年団は、代表する組織への補助金支出とするなど、効率的な援助を行うようにしたいが、地域密着度が高い上、異なった組織形態での合併統合は難点がある。		

平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	青年は指導・助言を加えながら存続させる。FOSは県・備前地区(教育事務所)共に行政が積極的関与をしており、現状だと地域公民館の応援をいただきながら運営する。					
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。